
あいさつ

会長あいさつ

A greeting from President of Okayama Association for Laboratory Animal Science

国枝 哲夫
Tetsuo Kunieda

岡山大学大学院環境生命科学研究科
Graduate School of Natural Science and Technology, Okayama University

前号のあいさつでも述べましたが、岡山実験動物研究会は1982年に設立されてから、今年で36年になります。その36年の間研究会では毎年2回の研究会例会を開催するとともに、研究会誌として岡山実験動物研究会報を発刊してきました。この様な長い歴史を持つ研究会誌は全国に11ある地域の実験動物研究会の中でもめずらしいのではないかと思います。研究会例会が岡山実験動物研究会の活動にとって重要であることはいまでもありませんが、一方で研究会報も研究会の活動にとって重要な位置を占めてきました。研究会報では毎号、会員から投稿・寄稿された論文や研究会での特別講演の要旨などに加えて、施設めぐりとして全国の動物実験施設の紹介記事や、各地域の研究会活動の紹介の記事を掲載しています。これらの記事は会員に対して実験動物関連の全国的な情報を適宜提供する場として有効に活用されてきたのではないかと思います。また、会報では賛助会員による広告も掲載していますが、これらは単に商品の広告に留まらず、賛助会員と一般会員の間をつなぐ場として有効に活用していただいているのではないかと思います。そのため、賛助会員の皆様には無料での研究会報への広告の掲載を提供しています。さらに、研究会報は岡山大学図書館の協力により、岡山大学学術成果リポジトリに登録され、掲載された論文や記事はオンライン上で公開されています。これは、研究会活動を全国に発信する上で重要な意味を持つだけでなく、研究会報に掲載された会員からの投稿・寄稿された論文がオン

ライン上で検索することが可能となり、会員の研究成果を広く普及する上でも貢献していると考えています。

この様に長い歴史を持ち、研究会活動の中で重要な位置を占め、会員への情報提供の場として活用されている研究会報ですが、この会報を今後、どのように継続、発展させていくかは、今後の研究会活動にとって重要な課題です。もちろん、研究会報の発行は会員の自主的あるいは互助的な貢献によって始めて成り立つものであることはいまでもありません。今後の研究会報の一層の発展のために、まずは会員の皆様に、これまで以上の積極的な投稿・寄稿をお願いしたいと思います。研究会報の論文掲載における基本的な編集方針は、会員の研究成果発表の機会を広く提供することにありますので、会員ご自身の、あるいは研究室の院生や職員の方の研究成果を積極的に投稿・寄稿いただければと思います。もちろん研究成果だけでなく、関連分野を俯瞰した総説や関連した分野への提言などの内容も歓迎しています。一方で、現在は研究会報の編集、発行、送付の作業は事務局が中心になって進めています。会員の皆様に満足いただける研究会報を定期的に発行することにはそれなりの労力が必要とされます。つきましては、これらの作業への会員の皆様の積極的な協力もお願いしたいと思います。会員の皆様の互助的な貢献により、岡山実験動物研究会報を今後も継続して発行し、よりよいものとしていきたいと考えています。